

予報期間 3月11日から3月17日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 13日は、伊豆諸島付近を発達しながら低気圧が東に進み、別の低気圧が千島近海に進む。高気圧が朝鮮半島付近に移動する。
- 14日から15日は、発達した低気圧が日本の東から日本のはるか東へ進み、大陸の高気圧が日本付近に張り出して、日本付近は西高東低の気圧配置となる。
- 16日から17日は、高気圧が黄海から日本海西部に移動する。

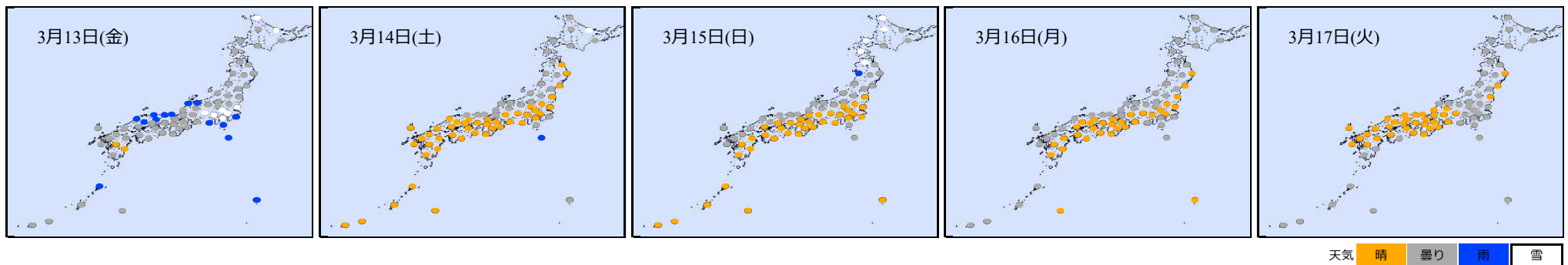
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 13日から14日頃にかけては、低気圧が発達しながら伊豆諸島付近から日本の東へ進むため、東日本太平洋側では荒れた天気となる所があり、低気圧の発達程度等によっては大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

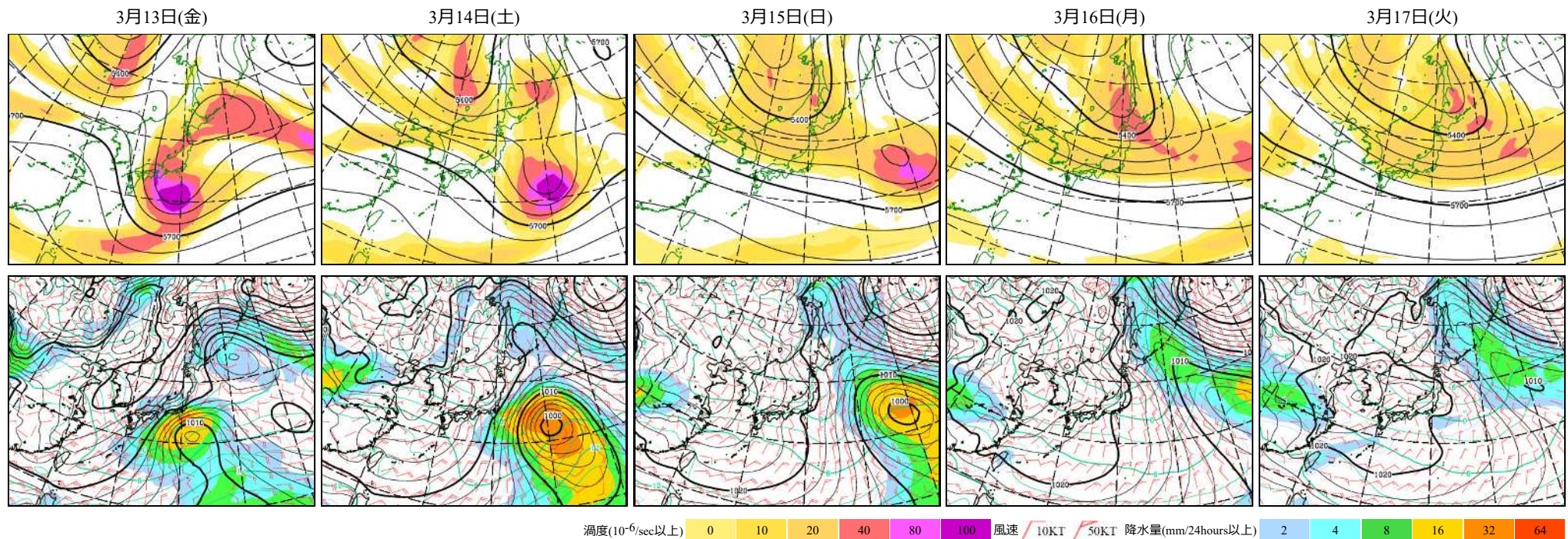
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

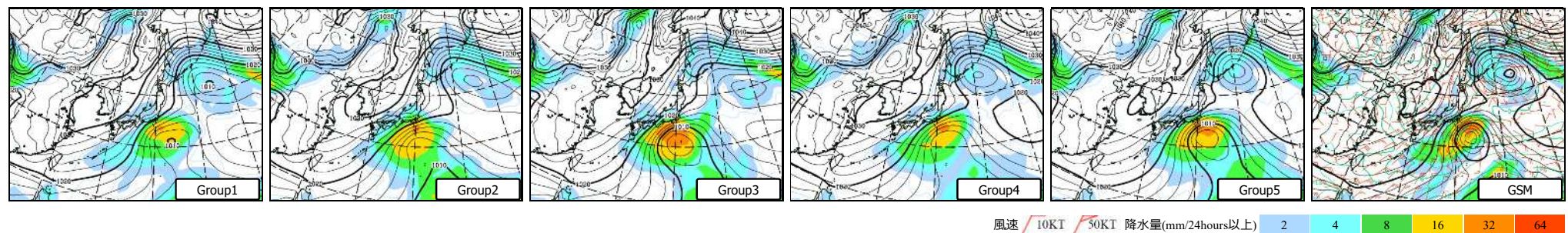


- 北日本と東日本日本海側は、雲が広がりやすく、雪または雨の降る所がある。
- 東日本太平洋側と西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、13日は雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りまたは晴れの日が多いが、13日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆3月13日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、13日から14日にかけて伊豆諸島付近から日本の東に進む低気圧の勢力が強まった。このため13日は、東日本で降水確率ガイダンスの値が大きくなった所がある。
- モデル間の差は14日までは小さいが、その後はトラフの形や進みなどにばらつきが見られる。
- スプレッドは期間の終わりは大きく、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。